

各 位

## 「山はみんなの宝！全国集会」

－自然を守り、親しむために施設の整備は必要だ－  
＜参加のお誘い＞

6月9日の環境省行政事業レビューで「山岳環境等浄化・安全対策緊急事業費補助\*」に『廃止』措置が下されました。山岳関係者のみならず、自然を愛するすべての国民にとってきわめて残念な決定です。富士山、日本アルプスから里山まで山岳自然は国民共有の財産であり、自然を守り、利用するためにはトイレなどの施設整備は必要不可欠です。公共的役割を担う山小屋トイレへの国からの支援はなくてはなりません。

つきましては、山岳自然環境の適正な保護と利用を図るために、トイレ・し尿処理など施設整備と維持管理のあり方を基本から討議する機会をつくりました。さまざまな分野、立場から参加をいただき、率直な意見交換をし、思いを1つにしたいと思えます。

以下のとおり会合を持ちますので、多くの方々のご参加をお待ち申し上げます。

なお、本会合と合わせ、賛同人を募っております。本集会のご出欠と合わせ賛同人へのお名前登載の諾否についてもご回答下さるようお願い申し上げます。

\*自治体、民間が設置する山小屋施設（トイレ）事業費への補助制度（環境省）

### 【開催概要】

日 時：7月22日（木）18：00～20：00

会 場：TKP 虎ノ門ビジネスセンター カンファレンスルーム 2A  
東京都港区虎ノ門 1-1-12 TEL.03-3519-6533

参加費：無料

プログラム（案）

18：00 開会

18：05 〔開催経緯〕

18：15 〔激励あいさつ〕

18：25 〔問題提起〕

（進行）神谷 有二（山と渓谷誌編集長）

（出席者）小澤紀美子（東海大学教授）、田中 文男（日本山岳協会会長）

穂苅 康治（槍ヶ岳山荘）長野県

19：00 〔各立場から〕山岳会、山小屋、旅行社、アウトドア、研究者、自治体ほか  
各分野・立場の方々からご発言いただきます。

19：50 〔意見交換〕

20：20 〔宣言（声明文）〕

20：20 閉会

20：30～《交流懇親会》（自由参加、参加費実費）

報告・討議内容

- (1) 山岳自然環境の保護と適正利用のあり方
- (2) 山(自然公園など)でのトイレ・し尿処理など施設整備のあるべき方向
- (3) 山のトイレでの山小屋と公衆トイレの役割分担、利用者負担のあり方

事務局：NPO 法人山の ECHO

(問合せ) 〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1-11-7 第2文成ビル3階

TEL.03-3580-7179 FAX.03-3580-7176 <http://www.yama-echo.org>

申込締め切り：7月15日(木)までに下記の FAX またはメールでお申し込みください

(FAX) 03-3580-7176 (メール) [yamatakara@yama-echo.org](mailto:yamatakara@yama-echo.org)

なお、ご入場は先着順とし、定員となり次第締切りといたしますので、お早目にお申込ください。

主催：呼びかけ人

- 愛甲 哲也(北海道大学大学院農学研究院准教授)
- 市毛 良枝(女優)
- 伊藤 太一(筑波大学大学院生命環境科学研究科助教授)
- 岩崎 元郎(無名山塾主宰、日本登山インストラクターズ協会理事長)
- 浦野 岳孝(八ヶ岳・硫黄岳山荘代表)
- 上 幸雄(NPO 法人山の ECHO 代表理事)
- 浦添 嘉徳(日本勤労者山岳連盟自然保護委員長)
- 加藤 峰夫(横浜国立大学教授)
- 神谷 有二(山と渓谷誌編集長)
- 黒川 恵((株)アルパインツアーサービス代表取締役社長)
- 小泉 武栄(東京学芸大学教授)
- 小澤紀美子(東海大学教授、子ども環境学会会長)
- 小室 直義(富士宮市長)
- 佐々木 泉(北アルプス山小屋協会会長、阿曾原小屋代表、黒部観光旅館組合長)
- 鮫島 員義((株)新ハイキング社長)
- 椎名 宏子(東京都山岳連盟自然保護委員)
- 白旗 史朗(山岳写真家、NPO 法人日本高山植物保護協会会長、(社)日本アルパインガイド協会会長)
- 辰野 勇((株)モンベル代表取締役会長)
- 田中 文男(日本山岳協会会長)
- 田部井淳子(登山家、NPO 法人日本トレッキング協会会長)
- 土野 守(高山市長)
- 枚田 邦宏(鹿児島大学農学部森林政策学研究室 助教授)
- 穂苅 康治(北アルプス・槍ヶ岳山荘代表)
- 松隈 豊(日本山岳協会自然保護副委員長)
- 宮口 侗迪(早稲田大学教育・総合科学学術院長)
- 本木 總子(NPO 法人 HAT J 理事)
- 森 武昭(神奈川工科大学副学長)
- 森田 洋(デナリパブリッシング(株) 代表取締役)
- 山川 陽一(日本山岳会理事、日本山岳会自然保護委員)
- 山田 恒男(常念小屋代表)
- 米川 正利(黒百合ヒュッテ代表)

(2010年6月30日現在)

### 「山小屋施設(トイレ)への国からの支援賛同書」

〔趣旨〕山は自然を愛するすべての人々の宝です。山の自然を守り、適正に利用するためにトイレなど施設の整備は必要不可欠です。公共的役割を担う山小屋トイレへの国からの支援に賛同いたします。

### 「山はみんなの宝！全国集会」へのご出欠

賛同の諾否	1. 賛同し、名前の登載も承諾する 2. 賛同するが、名前の登載は承諾しない		
〔全国集会〕 出欠	1.出席 2.欠席 3.その他 ( )		
氏名			
所属 (会社名・団体名)			
住所	〒		
TEL		FAX	
E-mail			
ご意見等自由にご記入下さい			

2名以上の方からご返送いただく場合は、この用紙をコピーして下さい。

#### 《会場案内図》

#### TKP虎ノ門ビジネスセンター

住所：〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1-1-12

TEL：03-3519-6533

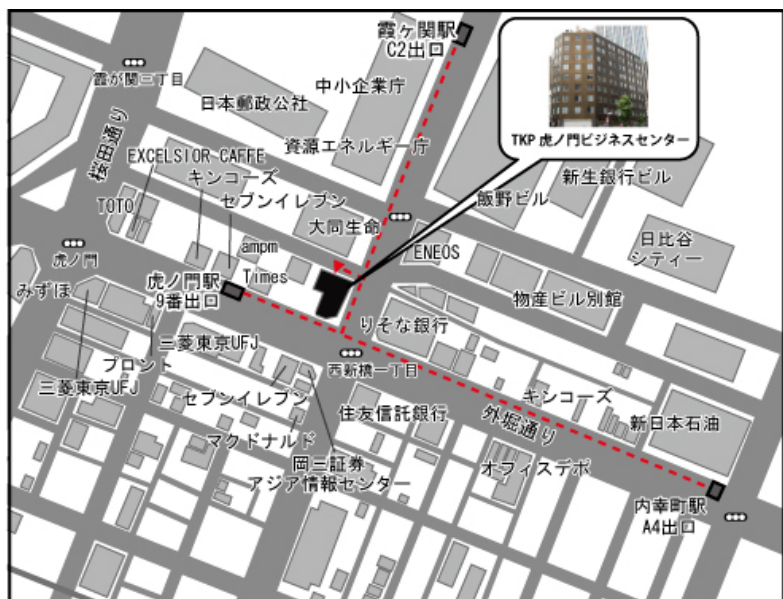
#### アクセス

東京メトロ銀座線「虎ノ門駅」徒歩1分

東京メトロ日比谷線「霞ヶ関駅」徒歩2分

都営三田線「内幸町駅」徒歩4分

ビルの入り口は裏側です



[予算事業名]山岳環境等浄化・安全対策緊急事業費補助

事業の目的	国立公園等の山岳地域などに存する山小屋は宿泊場所・トイレや飲料水等の提供、気候急変や急病等による避難や救護等、登山者の安全確保と適正な利用推進のための役目だけでなく、近年急増する登山者により増大する環境負荷の軽減対策(し尿・排水の処理や廃棄物の分別・処理など)という公共的な役割を担っている。しかしながら、条件不利地(無電、無給排水、無車道等)であり、これら公共的機能を十分に発揮する施設整備はなかなか進まない。そこで、これらの環境負荷及び安全等の対策を支援し、国立公園等の優れた自然景観地の保全と利用の安全性・快適性の向上を図る。
事業概要	国立公園等の山岳地域などの条件不利地(無電、無給排水、無車道等)において民間又は地方公共団体の山小屋等の事業者が環境浄化対策及び安全対策に必要な下記の①～③の施設の新設、増設等を行う場合に経費の一部を支援する都道府県を通じた間接補助事業 ①適正な排水・し尿処理施設(トイレ、処理エネルギーを含む)、②廃棄物の分別・処理施設、③緊急避難、応急医療施設 補助率:1/2(1件当たりの事業費の下限は1000万円(国費500万円))

# 環境省 山小屋トイレ補助 事業レビュー「廃止」

環境省は9日、「事業仕分け」の各省庁版である「行政事業レビュー」を行い、山小屋のトイレ整備を後押しする「山岳環境等浄化・安全対策緊急事業費補助」が、トイレ利用者が負担すべきなど理由で「廃止」と判定された。

99年度に始め、国立公園などの山岳地域にある山小屋の施設整備を通じて環境への負荷を減らす目的。排水・し尿や廃棄物の処理施設、応急医療施設などを整備する場合同省や地方公共団体など山小屋事業者にも都道府県を通じて経費の一部を補助する。

同省の田島一成副大臣は9日の記者会見で、判定結果について「重く受け止めなければならぬ」とし、政務三役であらためて事業を検証した上で今後の対応を決める考えを示した。

## 県内関係者「何とか続けて」

今回、環境省が「廃止」と判定した補助金は、北アルプスなど県内各地の山小屋のトイレに浄化機能を追加するきつかけになり、山岳地帯の環境保全につながった。県や山小屋経営者からは存続を求め、同省によると、同事業は1

今、環境省が「廃止」と判定した補助金は、北アルプスなど県内各地の山小屋のトイレに浄化機能を追加するきつかけになり、山岳地帯の環境保全につながった。県や山小屋経営者からは存続を求め、同省によると、同事業は1

億7千万円余。だがトイレのある県内の山小屋163軒のうち54軒は、し尿をそのまま流す「地下浸透」方式。同課は「補助を見越して新たに整備する方針の山小屋もある。何とか続けてほしい」とする。

来年度以降にトイレ整備を考えていた北アのある山小屋経営者は「補助金がなくなれば、考え直さなければならぬ」と話した。

「山岳観光地におけるし尿処理対策研究会」の山口孝会長(62)は「松本市波田」は、北アで経営する洞沢ヒュッテで、便槽を交換するカートリッジ式のトイレを導入した。維持費は年約300万円。1回1000円の使用料では賄えない。「維持管理だけは大変なのに」と行政事業レビューの判定を疑問視する。